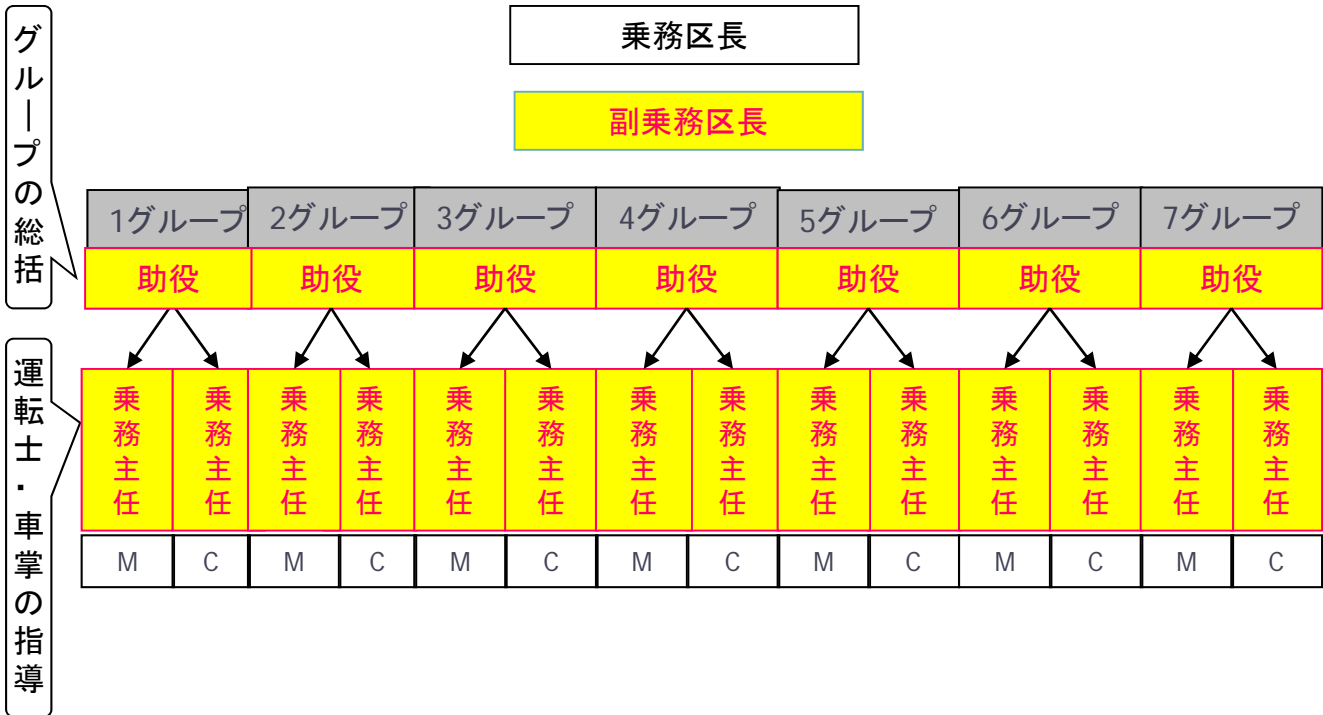


業 種	鉄道・軌道
取組分野	教育・訓練
テ ー マ	乗務員個々の管理・指導及び教育・訓練の体制・仕組みの強化
取組の狙い	組織統制の見直し及び乗務員個々の安全意識の向上・自律
具体的内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 団塊世代の大量定年により、経験の浅い乗務員が増加したため、よりきめの細かい指導やケアが必要となったことから、平成19年に「乗務区グループ制度」による体制を導入し、運転士・車掌を公休日ごとに7グループにわけ、それぞれのグループに担当の乗務主任2名（運転士担当と車掌担当各1名）と、グループを総括する助役1名を配置することにより、上司と部下の関係を明確化し、助役及び乗務主任が担当グループの乗務員に対し、注意深く指導できる仕組みに変更しました。</li> <li>2. これにより綿密なコミュニケーションが取れるようになりました。</li> <li>3. さらに、本制度による取組みを更に推進・強化するため、平成21年7月より、新たに副乗務区長の配置とともに、助役及び乗務主任が担当グループの乗務員と同様の勤務パターンに変更することとしました。</li> <li>4. 上記取組みにより、グループ担当の管理職が個人の弱点を見極めた細かい指導ができるようになり、管理職の責任感や管理職・乗務員の信頼関係を増すことができました。</li> <li>5. 各グループにおいては、毎月、自主的に課題を取り上げて勉強会を実施するとともに、その内容を乗務区管理職会議及び全乗務区管理職会議の場で発表し、他のグループや、他区・本社から意見・感想等を踏まえて、教育内容等を見直しています。</li> <li>6. 上記、5の取組みにより、各グループにおける勉強会の内容は、全社画一的なものではなく、前回実施した教育の検証や反省に加え、他のグループで実施した良い取組みも参考に、乗務員の意見・要望を踏まえ、業務に関する疑問点について、ベテラン社員が若年者に体験を話したり、実車を使用した車両故障時の対応訓練を経験年数別に陥りやすいミスを想定した意見交換など、様々な工夫が見られるようになりました。</li> </ol>
取組の効果	管理職の責任感や、管理側と乗務員の信頼関係が向上し、各グループの勉強会における教育内容が活性化され、安全意識の向上につながっています。
事業者名	京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部安全担当 (連絡先：042-337-3285)

# 乗務区グループ制導入

乗務区における上司と部下の明確化により綿密なコミュニケーションが取れる体制を構築



毎月各グループで業務に関する勉強会を実施

《グループ教育 PDCAサイクル》

